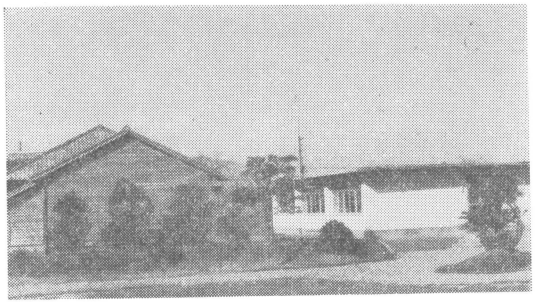
地方だより

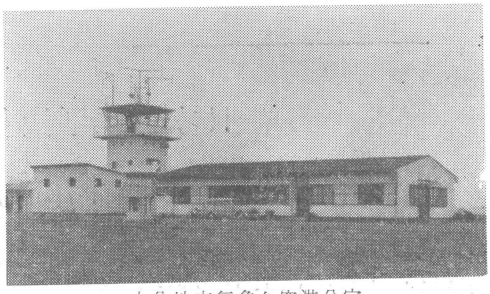
大分地方気象台



庁　　舎

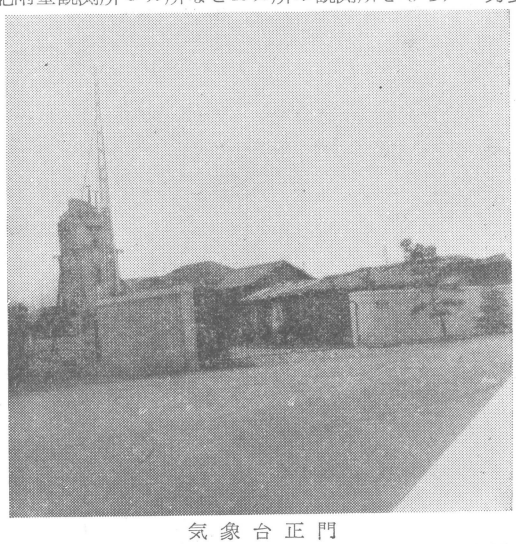
ここ大分（おおいた）というところは，いで湯のけむりが別府湾に映えて，つきない温泉情緒を秘める泉都別府と，世界にも稀な野猿の名所として一躍国立公園になった高崎山を境として別府湾に臨み，文字通りの風光明媚な国際観光都市として有名であり，地理的にも九州観光ルートの始点終点であるとともに，海と空からの東九州の表玄関口をなして京阪神方面に通ずる大動脈に当り，まさに東九州の産業，経済の中心都市といってもよかろう．

ここに紹介したいことはたくさんあるが，字数に制限があるので，高崎山の野猿を一つだけ紹介しよう．この山は標高 620m 余りで，その東麓は別府湾に臨み，屹立した山頂にかかる笠雲はよく雨の予報に利用される．数年前この山麓にある寺の和尚さんが，時々近くに姿を現わす野猿に餌を与えて馴したのが始まりで，その数は次第に増し，今日では 500匹以上に達し，映画「ただ今零匹」で有名な高崎山自然動物園として一昨年国立公園に編入され，猿は重要文化財に指定されている．多い時には 300匹も一時に猿寄せ場に姿を現わし，四季を問わず訪れる観光客と手をつないだり，抱かれたり，肩に登ったりして愛嬌たっぷりなサービスに連日ほほえましい交歓風景がかもし出され，おのずと旅のつれづれをなぐさめる．



大分地方気象台空港分室

本台の創立は明治20年1月10日で，県営測候所として県庁の一隅に開設されたが，業務の拡張によって現在の地に移転され，以後堅実な発展をつづけて以来71周年を迎えたが，この間には，昭和20年5月の戦災により庁舎は骨組みを残すだけに破壊され，応急修理のできるまでの一年間は所長官舎の一室で業務をつづけるという苦しい経験もあった．業務の面でも他官署と比較して格別取り立てて紹介することもないが，当地方は台風の常襲地帯に当り，終戦後は台風銀座として例年の如く，一吹何億という莫大な被害を受けるだけに，水害対策にはかなり重点がおかれ，県下の観測網としては三重通報所（所員2名，本台との間に無線電話連絡）をはじめ，ロボット雨量観測所4カ所，自記雨量観測所5カ所，長期捲自記雨量観測所3カ所など45カ所の観測所をもち，一方多



気象台正門

目的ダムの建設に対する協力等治水利水の面や，水稲の早期栽培などにはとくに力を注いでいる．また昨年3月大分飛行場の開設に伴い，8月には写真のように本台の空港分室が設けられ，3名の職員が労苦を忍んで，日夜航空の保全業務に専念している．写真のように，昨年12月16日には総建坪45坪の鉄筋一階建のモダンな庁舎が，旧庁舎の北側に増築されて，構内の面目を一新し，去る1月23日創立70周年記念と併せ，庁舎増改築落成記念祝賀式が盛大にとり行われた．昨年9月1日地方気象台への昇格についで庁舎の増改築が実現しいよいよ栄ある気象台としての発足をみたが，今後名実ともにそれにふさわしい業績を挙げるよう台長以下30名の職員一同大いに張り切っている現状である．

附記　「大分」とは随分珍らしい読み方の地名であるが，これは古文書によると，景行天皇が九州へお下りの際当地にお立寄りになり命名された由緒深い地名である．

（33,2,1竹下記）